

## 令和元年度 自己評価について

### 保育者の自己評価から

保育者には、以下のような項目の自己評価を課した

(四段階評定・よくできた、できた、一部改善が必要、改善しなければならない)

- ① 保育理念
- ② 保育の実践
- ③ 環境設定
- ④ 子どもへのかかわり
- ⑤ チームの一員としての意識
- ⑥ 保護者支援

“保育理念”の中に、「常に保育理念を確認する機会をつくっている」という設問があるが、低評価が目立った。個人個人がなんらかの方法で保育理念を再確認することを期待していたのであるが、このような振り返りが個人レベルでは難しい状況であることがわかった。

そこで、来年度を迎えるにあたって園内研修を行い、保育理念を共通認識する機会としたい。また、年度途中でも全職員が園内研修に参加できるよう計画をしていく。

### 保護者アンケートから

・回収率約4割

・質問事項：

- ① 保育方針について
- ② 行事について
- ③ 子育てに関する相談に関すること
- ④ 子どもの成長（記述式）

・結果

☆ほぼ、保育理念に賛同して頂いている

☆主な好意的な意見

○異年齢保育により、上の子に対する接し方、小さい子に対してお世話するなど、成長を感じることができた。

○担任から箸を持てるようになったこと、ハサミを上手に使えるようになったなどの報告があり、ありがたかった。

○子ども同士でかかわる力がついた。

○自分の考えをしっかりと言えるようになった。

- 自分から進んで、園であったことを話してくれるようになった。
- 家庭で片付けや準備等、気がついたことを率先して手伝ってくれるようになった。提案もしてくれる。
- 思ったことを言葉で伝えられる。親が出ていなくても、子どもが先生に伝えたり、準備ができるようになった。
- 文字・時計が読めるようになった。
- 服の着脱や、服をたたむなど、率先してするようになった。
- 友だちの気持ちがわかるようになった。

★要望等

- 行事について（平日の保育参観のような日常の保育が見られるようなもの）は、もう少しあってもいいのでは？ という意見があった。

★批判的な意見

- 保育士に聞いてほしかったことを話したのだが、苦情と捉えられてしまい心外であった。

## 考 察

保育者の自己評価から以下のようなことを感じた。

保育理念とそれに基づく保育の方法については、園内研修・チーム別研修等の必要性を感じた。

年度初めに行う予定である。

また、1～2年目の職員中心に園長との面談を行い、現状と課題を共有する機会を持つべきであるとの認識に至った。

保護者アンケートでは、昨年度同様概ね保育に対して好意的な意見が多数を占めた。

行事に関しては、就労している保護者への負担にならないという考えでいた。しかし、普段の保育の様子を知りたいという保護者は多く、なんらかの形を考えていきたい。

相談等に関する苦情については、昨年度よりも改善した。しかし、「親身になって保護者の思いに耳を傾ける」ということの大切さを再確認していきたい。